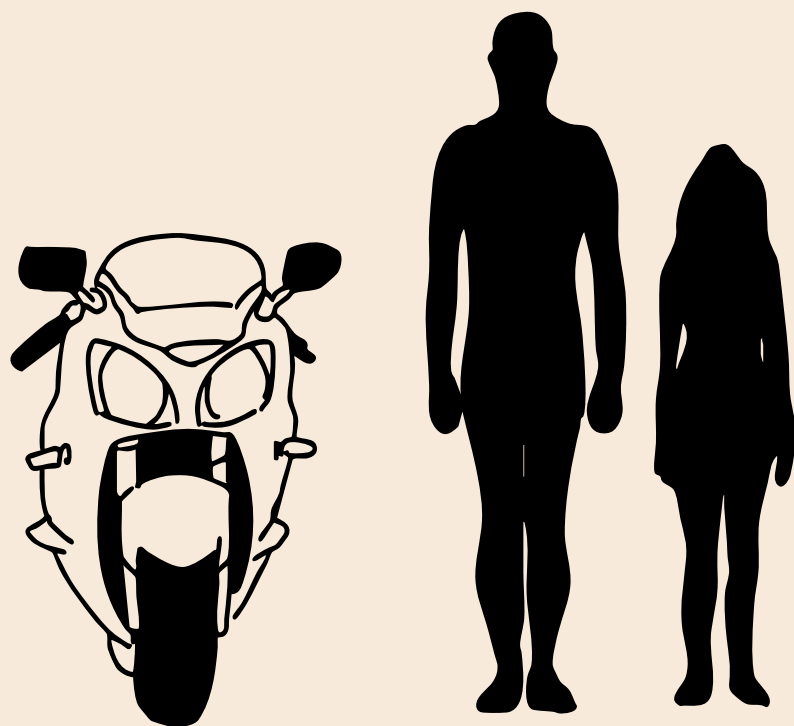


女性のための EV バイクの提案

12107034 牧下蓮

背景

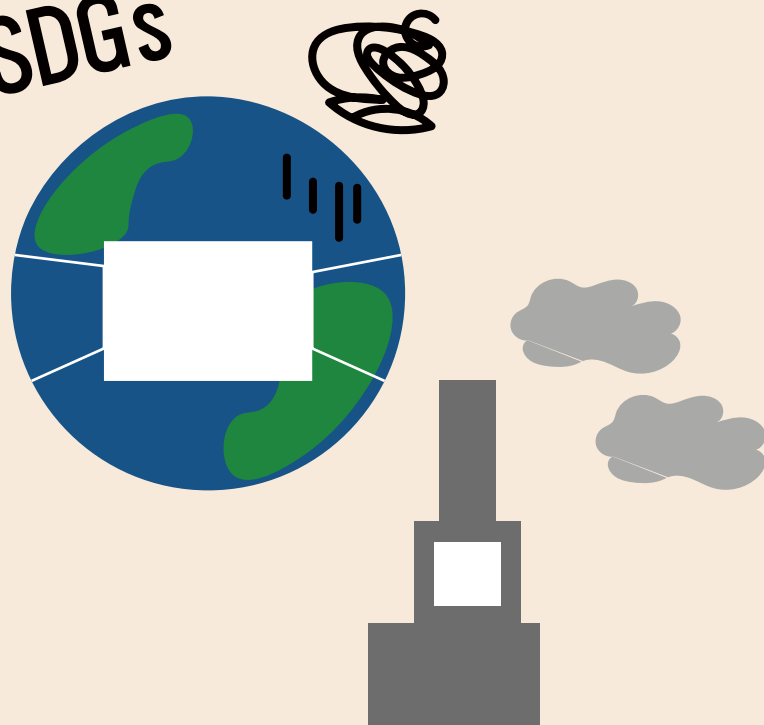


バイク寸法が男性に標準化 女性にとってシートは高い！

近年、コロナ禍の影響もあり余暇や趣味の多様化が著しく、個人での過ごし方が再注目され、女性の自動二輪免許の取得率も向上している。しかしバイク寸法体系は男性を標準に作成されている。そのため多くの女性は足がとどかないなど安定した姿勢を保持することが困難となる。

EV

SDGs



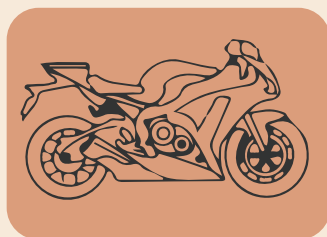
近年、EV にシフトする動きが…

**ガソリン車よりもパーツ構成数が
少なく軽量になる傾向も！**

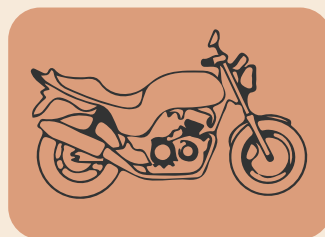
現在、SDGs をはじめとする環境保全への取り組みが世界的に進められている。そのため、国内外では環境汚染に配慮した電動バイクの普及が期待されている。

車種

スパースポーツ



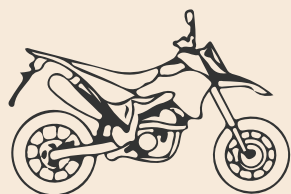
ネイキッド



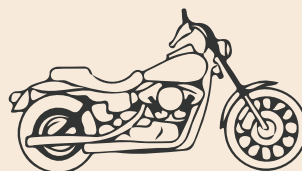
ストリートファイター



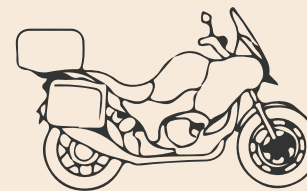
モタード



アメリカン



ツアラー



比較的女性に人気なカタチは、スパースポーツやネイキッド、アメリカンなどが上げられる。

この研究では日本市場で需要の高いスピード走行を楽しめるスポーツタイプと市街地で走行を重視するネイキッドの2つを取り上げて造形をテーマに設定する。

仮説

ネイキッド



ST250 E

外装の特徴として、クラシックバイクはノスタルジック（レトロ）でシート高が他の種類と比べて低いため安定感があるのが特徴だ。

スポーツ



Vストローム 250 cc

スーパースポーツはカウルでおおわれており、前傾姿勢なのが特徴となる。

EV



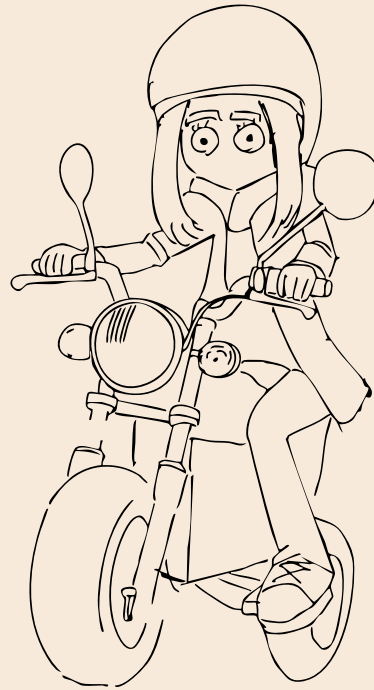
TROMOX MINO

EVは他のバイクと違いパーツ構成が少なく女性でも乗りやすいサイズが多くある。



EVのパーツ構成数だからこそ女性の寸法体系にあったカタチを研究することができる。

目的



乗れる！を叶えるバイクの提案

スーパースポーツやネイキッドのフォームは守りつつ、要素分解をしてEVに落とし込んでいく。
また女性ライダーにとって乗りやすいカタチやフォームの研究をする。

検証

構造が詰まっているタイプ



構造に余裕があるタイプ



ガソリン車とEV車ではエンジンではなくバッテリーが搭載されている。さらに燃料タンクや冷却装置なども不要となる。構成は同じだがパーツ構成に差がある。身体が触れる部分はソリッドのかたまりに見せ、骨組みに布をかぶせるようなイメージで研究を進めていく。

検証1号



バイクらしさを追求

既存のバイクの大切なイメージやカタチを
モデルに落とし込んだ。

検証2号



EV シフトによるデザイン改善

エンジンバイクにはないEVバイクらしさを探った

- 面の切りかえしを減らし、EVらしさを演出
- × EVであることを考慮したスペース設計でない

検証3号



バイクらしさと EV 要素の融合

1号と2号のいいとこどりをしたカタチを作った

× 重心が低すぎた

→ 全体のスペースの見直し

検証4号



自然なフォームと細部の追求

最終に向けて全体を調整した

× 女性の乗りたくなるカタチについて要再検討

検証最終号



最終版

「女性の乗れるを叶えるバイクの提案」というコンセプトに立ち返り、これまでの検証をまとめ再度デザイン。

1年間研究をしてきましたがあっという間に過ぎ去った1年でした。まだ詰めたかったところは正直あります。現在二輪の教習所に通っていることもあり、足が地面につく安心感はバイクを乗るうえで大切なことだと日々感じながら研究に取り組んできました。「女性のためのEVバイク」の研究を通して発見できたことやたくさんの方々の支えがあり研究を進めることができました。本当にありがとうございました。

